

5-2 アジア8カ国向け9言語による津波防災教材の発行

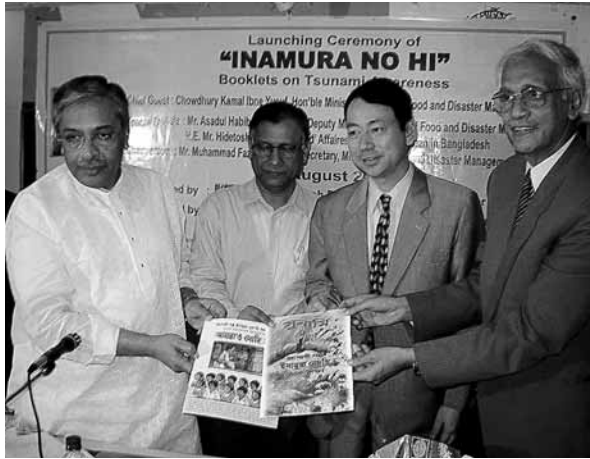
アジア防災センター（ADRC）は、NGO アジア防災・災害救援ネットワーク（ADRRN）との協力のもと、アジアの8カ国向け9言語による津波啓発の教材を作成しました。バングラデシュ向けのベンガル語版、インド向けのヒンディ語およびタミル語版、インドネシア向けのインドネシア語版、マレーシア向けのマレー語版、ネパール向けのネパール語版、フィリピン向けの英語版（大人用）およびタガログ語版（こども用）、シンガポール向けの英語版、スリランカ向けのシンハラ語版の大人用、こども用の合計18種類があります。（*ADRRNは国連人道問題調整事務所神戸とADRCの支援のもと2002年に設立された防災や災害救援に携わっているアジアのNGOの協力推進を目的にしているネットワーク）

この教材には、日本の古い津波防災教育のために作成された「稲むらの火」のお話が各国の状況に応じて少し変更されて紹介されています。また、津波防災のための知識についての情報も含まれています。「稲むらの火」のお話は、実際に日本で1854年12月24日に起きた巨大な津波被害にもとづいた小学生向けの教材です。このお話では、災害の教訓から学ぶこと、そしてそれを伝えていくことの重要性、災害時の迅速な判断と行動の必要性について教えています。

作成に協力したADRRNのメンバーはADRCと協力し、それぞれが実施しているコミュニティレベルでの津波復興や防災プログラムを通してこの教材を各国で配布しています。アジア防災センターは、この教材が各国や地域のコミュニティにおいて将来の津波発生時の被害を軽減する手助けとなることを願っています。



図5-2-1 「稲むらの火」のお話を利用した8カ国版津波防災教材（こども向け）



バングラデシュ



インド



インドネシア



ネパール



スリランカ

図5-2-2 各国での教材配布の様子

pdf 形式による各教材は下記のページで公開されています。

<http://www.adrc.or.jp/publications/inamura/list.html>